電気・管・設備高尾野連合会が奉仕活動

施設の設備を清掃

電気・管・設備高尾野連合会(郡山卓馬代表、会員16社)は2日、出水市高尾野町の出水市学校給食センターで毎年恒例の奉仕活動を実施。参加した会員32人は、網戸の張り替えや換気扇の清掃作業に心地よい汗を流した。

当日は、午前8時30分に現地に集合。参加者を前に郡山代表(有)高尾野電設)が「活動も回を重ねるごとに作業内容や手順などスムーズに行うことができて感謝します。子供たちが安全で、おいしい給食が食べられるようにきれいにしたいと思います。また、高所作業では転落事故など十分注意して活動してほしい」などと挨拶。

次いで、藤野俊朗高尾野町管工事組合長(有)明光電設)が班編成や作業内容等について説明した後、川上義天同センター所長が「皆さんの活動のおかげで安心・安全に学校給食を提供することができ、本当に感謝しています。けが等のないように十分注意して作業を行ってほしい」と激励の言葉を述べた。

作業を前に写真に納まる参加者＝出水市高尾野町の出水市学校給食センターで

当日は、吹き抜けの最上段にある換気扇や明かり取り窓の清掃のために足場4段を組み上げて作業を進めたほか、排煙窓、排気ダクトの清掃、網戸の張り替えなどを実施。

参加者らは、汗びっしょりになりながら作業を進め、終了後は見違えるほどきれいになった。

参加企業は次の通り。

(有)釜崎水道　(有)窪産業　(有)桑野水道設備　(有)嶋田設備　(有)野村電設　(有)樋口電設　丸田工事店　(有)明光電設　(有)山崎水道設備　原工業　阿多商店(有)　今林設備(有)　(有)三和メンテ　軸園設備工業　ハマ冷機設備　(有)高尾野電設

笠利建友会が奉仕活動

道路大切にする心を

道路に触れ合い、道路を慈しむ機運を盛り上げよう―と、奄美市の笠利建友会(山下義和会長)が1日、10日の「道の日」を前に笠利町内の道路沿いの草刈りや空き缶拾いの清掃ボランティアを実施した。

この日は、午前8時30分に参加者30人が同町の外金久コーポ横の空き地に集合。作業上の注意事項や担当地区を確認し、早速持ち場に移動し作業に取り掛かった。

参加者らは6班に分かれ、それぞれ草刈り機やかま、くま手、ほうきを手に各々作業を開始した。午前中で既に30度を超えるなど真夏の強い日差しの下、黙々と作業を続けた。丸一日をかけた作業で周辺道路は見違えるほどきれいになり、周辺住民らもねぎらいと感謝の言葉を掛けていた。

作業終了後、山下会長は「道路は、日常生活や経済活動に欠くことのできない重要な施設。しかし、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過ごされがち。われわれの活動により、道路を大切にする気持ちが広がれば」と期待を込めた。

参加企業は次の通り。

畠山建設(株)　(有)宝納組　(株)田中組　(有)西建　(株)里山組　伸興建設(株)　(有)浜田建設　(株)山下建設　(有)上村建設　(有)土浜産業　仁晃開発(株)　(株)西組　深田建設(株)　(株)前田建設　(有)榮建設　(株)浜田機動　(有)平田水道土木　(株)丸善工務店　(株)安田組　(有)豊工務店

強い日差しの下、作業に従事する参加者＝奄美市笠利町の現地で

町の復旧われわれが――

6日間で200人導入

吉松建設同志会

「会員の中にも自宅、事務所が浸水した企業もありましたが、まずは町の復旧から。『われわれがやらなければ誰がやる』の精神で取り組みました」と話すのは吉松建設同志会の高橋辰己会長だ。

県北部豪雨災害で大打撃を受けた湧水町の旧吉松町地区では、7月22日から浸水が始まった。町当局から高橋会長に復旧要請があった。会員と被災状況を確認し、まずは代表的な場所を会員10社で3日間かけて、全面開通を果たした。その後は全会員12社で各地からのボランティアと協力しながら民家から出る廃棄物を処分場へ排出するという作業に入った。

24日から始めたボランティア活動も29日までの6日間にわたり、会員から延べ200人に及ぶ人員を導入し、作業にあたった。当初、道路沿いに山積みにされた家財道具も徐々に片付けられ、荒廃した町並みも元に返りはじめている。参加者の一人は「わが町が早くに復旧して良かった。これから自分とこをやろうか」と微笑みながら話した。

会長の事務所が浸水したものの24日から町の復旧活動に入った。

24日はまだ水が残り、道路も土砂で入れないという地区もあり、ボランティアも復旧に入れない状況だった。そこで、まず会員の事務所が浸水したものの24日から町の復旧活動に入った。

早期復旧を願い延べ209人が参加して行われた復旧作業＝湧水

桑原組が清掃ボランティア

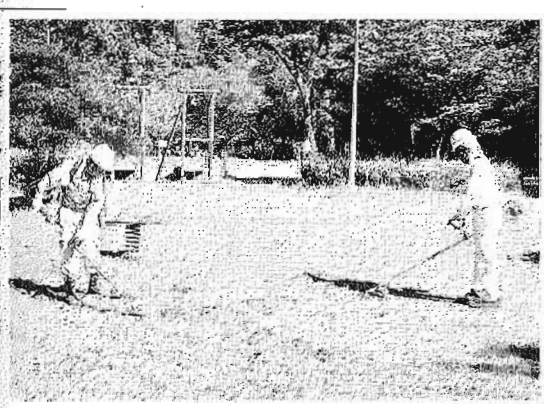
地元の名所を大切に

地元への貢献活動の一環として、(株)桑原組(桑原克幸社長、錦江町)は7月31日、大鹿公園で草刈り機やかま、くま手、ほうきを手に各々作業を開始した。午前中で既に30度を超えるなど真夏の強い日差しの下、黙々と作業を続けた。丸一日をかけた作業で周辺道路は見違えるほどきれいになり、周辺住民らもねぎらいと感謝の言葉を掛けていた。

作業終了後、山下会長は「道路は、日常生活や経済活動に欠くことのできない重要な施設。しかし、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過ごされがち。われわれの活動により、道路を大切にする気持ちが広がれば」と期待を込めた。

参加企業は次の通り。

畠山建設(株)　(有)宝納組　(株)田中組　(有)西建　(株)里山組　伸興建設(株)　(有)浜田建設　(株)山下建設　(有)上村建設　(有)土浜産業　仁晃開発(株)　(株)西組　深田建設(株)　(株)前田建設　(有)榮建設　(株)浜田機動　(有)平田水道土木　(株)丸善工務店　(株)安田組　(有)豊工務店



気持ち良く利用してもらおう―と除草作業に取り組む社員＝錦江

県建設業協会肝属支部青年部会・鹿屋建友会青年部

血液不足に貢献

県建設業協会肝属支部青年部会(小林省三会長)と鹿屋建友会青年部(江口竜矢部長)は1日、県建設業協会鹿屋支部(原口優支部長)の応援をもらい、鹿屋市の肝属建設会館で合同の集団献血を実施した。会員や関連企業、一般から約250人が献血に参加した。合同献血は、血液の不足しがちな夏場に毎年実施、今回で17回目。深刻な社会問題となっている夏場の血液不足解消に、こうした建設業界の活動は医療機関関係らから高く評価されている。

参加者は、採血の流れなどの説明を受け診断表に記入した後、3台の献血車に分かれ採血を行った。県赤十字血液センターでは「今の時期は1年でもっとも血液が不足するが、大勢の方が参加してもらいとても助かり、感謝しています」と話し、実行委員長の坂元晋作氏は「たくさんの方が献血に協力していただいてありがたい。夏場の血液不足に貢献できて良かった」と感謝した。

献血を前に問診を受ける参加者＝鹿屋市の肝属建設会館で

カナダプレイス新商品発表会

輸入住宅の良さ提案

(株)カナダプレイス(岩下克己社長)は1日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで「アイホームフォレスト」新商品発表会を開催。会場は社員や協力業者ら約320人が出席し、輸入住宅独特のデザイン性や飽きのこない質感、機能性に富んだ商品提案に見入っていた。

ナイス(株)(東京都)の完全サポートのもと、同社ともコラボレーションで開発されたもの。当日は、岩下社長が「輸入住宅はデザインはもとより、地震や台風、火災に強く、断熱や遮音性にも優れている。新商品のアイホームフォレストは南九州にマッチした商品で、今後も安全・安心で快適な住宅を提供していきたい」、伴野政樹ナイス(株)取締役事業推進本部副本部長は「素材、家づくりの思いも伝えていきたい」とそれぞれ挨拶した。

続いて、新商品発表では担当者が、流行にとらわれないクラシカルな手法のデザイン性や外部・内部建具など飽きのこない質感をスライドを使って分かりやすく解説していた。

協力業者らが出席した新商品発表会＝鹿児島市のかごしま県民交